

第13回UNHCR難民映画祭2018

パートナーズ（学校、企業、団体）の皆様による上映会の候



UNHCR 難民映画祭 2018

PARTNERS パートナーズ



UNHCR
The UN Refugee Agency



難民を守る。難民を支える。
国連UNHCR協会

開催期間：2018年8月1日～2019年7月31日

お問い合わせ：難民映画祭事務局

Eメール rff@japanforunhcr.org



ソニータ

監督：ロクサレ・ガエム・マガミ/スイス・ドイツ・イラン/2015年/91分/ドキュメンタリー
ソニータがスクラップブックに書いた夢は有名なラッパーになること。しかし、パスポートも滞在許可証もなく、アフガニスタンのタリバンから逃れてきた難民の彼女は、不法移民としてこの施設で心の傷を癒やすためのカウンセリングや将来のアドバイスを受けている。一方で彼女の家族は全く別の将来を準備していた。彼女が16歳になると、アフガニスタンに住む親は、古くからの習慣どおりにソニータを見ず知らずの男性に嫁がせようとする。花嫁の値段は9,000ドル。女性が歌うことが許されないイランで、ソニータはどうしたらラッパーになる夢を叶えることができるのだろうか？母親から迫られる強制結婚から逃れるため、そして有名なラッパーになるという夢を追うため、ソニータは自らの人生を歌うことで切り拓こうとする。

●第11回UNHCR難民映画祭（2016）上映作品

作品ウェブサイト

<http://unitedpeople.jp/sonita/>

トレーラー

<https://www.youtube.com/watch?v=YQi1bTg5PvM>



女を修理する男

監督ティエリー・ミシェル/ベルギー/2015年/112分/ドキュメンタリー
一人の医師の勇気ある行動が世界を動かし4万人以上の性暴力被害女性を治療した——コンゴ人婦人科医デニ・ムクウェゲ医師の命がけの治療を追ったドキュメンタリー。本作は、暗殺未遂にあいながらも、医療、心理的、そして司法的手段を通して、婦人科医のデニ・ムクウェゲ医師が性暴力の生存者を献身的に治療する姿を映している。それに加えて、生存者の衝撃的な証言、加害者の不処罰の問題、希望に向かって活動する女性団体、そしてこの悲劇の背景にある「紛争鉱物」の実態も描かれている。

●第11回UNHCR難民映画祭（2016）上映作品

作品ウェブサイト

https://www.cinemo.info/movie_detail.html?ck=58

トレーラー

<https://www.youtube.com/watch?v=HNkuhVkbZ1A>



シリアに生まれて

監督：エルナン・ジン/デンマーク、スペイン/2016年/84分/ドキュメンタリー
2011年以来、シリア危機によって故郷を後にした数百万人もの人々、その多くは子どもである。ヨーロッパへと向かう長く苛酷な道のりや周辺国の難民キャンプ、あるいはようやくたどり着いた見知らぬ土地で子どもたちは何を想うのか。爆撃により負傷し、家族と生き別れ、子どもとしての時間を奪われ、それでも新たな希望を胸に逞しく生きる7つの小さな命にカメラが丁寧に寄り添う。

●第12回UNHCR難民映画祭（2017）上映作品

トレーラー

<https://youtu.be/7M8owWOz018>



私たちが誇るもの ～アフリカン・レディーズ歌劇団～

監督：ロス・ホーリン/オーストラリア/2016年/85分/ドキュメンタリー

アフリカ各地から暴力や性搾取を逃れ、オーストラリアにやってきた4人の女性たち。現在は仕事や家庭を持って暮らしているが、祖国で受けた心の傷は癒えてはいない。反乱軍によって性奴隷とされたアミナタ、幼い頃に親に捨てられ自分の年齢すらわからないヨディ。家族にも打ち明けていなかった辛い過去。その体験を舞台にすることにより、周囲の理解と自分たちへの自信を深めていく。女性たちのしなやかな強さを描いた感動作。

●第12回UNHCR難民映画祭（2017）上映作品

トレーラー

<https://www.youtube.com/watch?v=fHLvWMn4N0A>



ソフラ～夢をキッチンカーにのせて

監督トーマス・モーガン/アメリカ、レバノン/2017年/73分/ドキュメンタリー

レバノンの難民キャンプで生まれ育ったパレスチナ難民のマリアムは、自分の運命に立ち向かうためにケータリングビジネス「Soufra」の起業に挑戦する。幾多の困難に直面しながらも、同じような境遇にあるパレスチナ、シリア、イラク難民の女性たちとともに奮闘する日々が続く。人類史上、最も大規模な難民危機で生まれたサクセスストーリーは、絆、希望、勇気、情熱とともに、人々が戦争による心の傷を癒していく姿を描く。

●第13回UNHCR難民映画祭（2018）上映作品

トレーラー

<https://vimeo.com/233138776>



アイ・アム・ロヒンギャ

監督ユスフ・ズィーネ/カナダ/2018年/90分/ドキュメンタリー

ミャンマーから命がけでバングラデシュに避難したロヒンギャ難民たち。やがてカナダのオンタリオ州へ定住し、生活をあらたに立て直そうと奮闘する。14人の若者が、過去に負った拷問、殺人、レイプ、焼討ちといった壮絶な経験に苦しみながらも、地球上で最も迫害を受けている民族といわれるロヒンギャの人々の現実を世界の人々に伝えるために立ちあがった。演劇を通じて、自身の経験、トラウマ、アイデンティティに向き合い、若者たちはその過程で大きく成長していく。彼らを突き動かすのは、忘れてはならない悲劇を伝えていかなければならないという使命感であった。

●第13回UNHCR難民映画祭（2018）上映作品

トレーラー

<https://www.youtube.com/watch?v=g7XXolxFKi0>

セット上映作品（短編）



世界のまなざし（原題：Eyes of Exodus）

監督：アレクサンドラ・リヴェリス/アメリカ/2017年/27分/ドキュメンタリー

舞台はギリシャ・カステロリゾ島。面積9km²、人口300人の小さな島である。欧州難民危機が起きた2015年、大量のシリア難民がこの島に押し寄せた。カステロリゾ島でペンションを営むダミアンとモニカ夫妻は、できる限り難民を助けようとする。しかし、彼らを受け入れることで島の生活は変わり始めていた。難民と島民、双方の葛藤を描いた短編ドキュメンタリー。

●青山学院大総合文化政策学部「映像翻訳ラボ」字幕作成・上映作品

※他の候補作品とのセットでの上映（任意）に限る

トレーラー

<https://vimeo.com/205143188>